

新型コロナウイルス（COVID-19）における医療従事者の感染防止の重要性

今回の新型コロナウイルスにより多くの感染者、重症者が発生しております。「感染拡大の防止」や「診断・治療体制の確立」など多くの方が尽力されていることと思います。その中で医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、薬剤師など病院で働いているすべての職員は、感染リスクの高い現場で新型コロナウイルスへの対応を行っています。

私たち診療放射線技師はX線検査、CT、MRI、核医学検査、血管造影、放射線治療などの様々な検査・治療を担っております。診療放射線技師が新型コロナウイルス感染（もしくは感染疑い）となった場合には、そのスタッフは自宅待機または入院を余儀なくされることになります。また、近くにいた多くのスタッフも就業制限がかかる恐れが生じます。

このような事態に陥った場合には患者さんへの検査ができなくなります。つまり、「診断がつかなくなる」、「治療方針が立てられなくなる」、「治療ができない」、「治療効果が判定できない」など大きな影響があり、その医療施設の機能が停止してしまいます。これは多くの患者さんの受け皿である医療機関が失われていくという医療崩壊につながっていきます。

今一度、医療従事者の感染防止を再考していただき、繁忙などの理由で感染対策がおろそかにならないように個人および施設での行動を見直してください。

特定非営利活動法人

日本X線CT専門技師認定機構

代表理事 井田義宏